事業３　国際交流　及び　事業４　海外研修

１　令和３年度の実施状況について

本年度も新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、海外渡航が制限されたため、例年実施していた国際交流活動や海外研修を中止せざるを得なかった。しかし、昨年度は中止となった英語合宿（第１学年の普通科内進生全員・国際教養科全員・普通科外進生が参加）は、感染対策に配慮した上で、福島県のブリティッシュヒルズで令和３年１２月２４日（金）～２６日（日）に実施することができた。

２　代替として実施した内容

このような状況の中で、試行錯誤しながらオンラインを活用して以下のような国際交流を実施した（**資料１**）。また感染状況を踏まえて、外部機関を活用した研修を実施した。今回は昨年度と異なる内容について、以下に報告をしたい。

資料１　令和２・３年度の国際交流

活動内容	実施年度
メロス言語学院とのオンライン交流	令和２・３年度
ユネスコ主催事業―韓国教職員とのオンライン交流	令和２・３年度
韓国の蔚山科学高校とのオンライン交流	令和３年度
千葉大学留学生との交流	令和２・３年度
ＪＩＣＡ市ヶ谷研修	令和２年度
東京グローバルゲートウェイ研修	令和３年度
国際ＮＧＯを招いてのセミナー	令和２年度

(1) 韓国の蔚山科学高校とのオンライン交流【全校生徒・希望者】

令和３年２月にユネスコ主催のプログラムで、本校の国際教養科２年生は、韓国の教職員の方々と交流を行った。その交流に参加していた先生から、生徒同士の交流ができないかとお話をいただき、韓国の蔚山科学高校の生徒と、高校２学年～３学年の希望者がオンラインで交流を行った。交流校の蔚山科学高校は韓国南東部のウルサン市にあり、理数系・科学技術系の専門とする学校である。交流は６月に２回、１１月と１２月に１回ずつの計４回実施し、英語で自己紹介や気候変動の危機的な状況に対する解決策や実践策について、両校の間で活発なディスカッションを行った。

第１回（６月２日（水）放課後）

場所：７つのグループに分かれ、７つの部屋に移動

内容：Zoom を使用し全体で交流をする。

①あいさつ

②自己紹介（１人１分、英語）

③学校紹介（５分、代表、英語）

④質疑応答

第２回（６月９日（水）放課後）

場所：７つのグループに分かれ、７つの部屋に移動

内容：ZOOM を使用し以下の通り実施

①あいさつ　全体会

②ブレイクアウトルームで意見交換（気候変動）

③全体会　各グループからの報告

④蔚山高校生徒１名と稲毛高校生徒１名が当日学んだ事や感想を伝える

⑤閉会

資料２　第２回の前に事前学習用に使用したプリント

気候変動に対応する日韓高校生対談に向けて

Questions and answers for climate change discussions

Ｑ１　世界の平均気温は、１００年で何℃上昇したか。
How many degrees has the Earth’s average global temperature increased in the past 100 years?
Ａ１　０．７２℃ (Celsius)

Ｑ２　現在の地球の平均気温と、温室効果がない場合の地球の平均気温は何度か？
How many degrees is the Earth’s present average temperature?
How many degrees would the Earth’s average temperature be without the greenhouse effect?
Ａ２　１５℃ (Celsius) , －１８℃ (Celsius)

Ｑ３　温室効果の原因となる気体を３つ挙げよ。
List three examples of greenhouse gases.
Ａ３　Water vapor, Carbon dioxide, Methane.

Ｑ４　大気中の二酸化炭素が増加し始めたのはいつからか？
When did the atmospheric carbon dioxide start to increase?
Ａ４　During the Industrial Revolution (18th century)

Ｑ５　大気中の二酸化炭素増加の原因は？
What causes the increase of carbon dioxide in the atmosphere?
Ａ５　The burning of fossil fuels like coal and oil.

Ｑ６　化石燃料を３つ挙げよ。
List the three types of fossil fuels.
Ａ６　Coal, Oil, Natural gas.

Ｑ７　これらはなぜ化石燃料と呼ばれるのか？
Why are these three called fossil fuels?
Ａ７　Because they are formed from the remains of dead animals and plants.

Ｑ８　化石燃料のうち、二酸化炭素の排出量が最も多いのは何か？
What fossil fuel emits the most CO2?
Ａ８　Coal

Ｑ９　地球誕生当時の大気中の二酸化炭素の割合は？
What was the percentage of carbon dioxide when the atmosphere of the Earth was first formed?
Ａ９　９５％

Q10　先カンブリア時代に大気中の二酸化炭素が減ったのはなぜか？
Why did the amount of atmospheric carbon dioxide decrease in the Precambrian period?
A10　Because it was used by cyanobacteria for photosynthesis, dissolved in the oceans and formed fossil fuels.

Q11　二酸化炭素でできている岩石は何か？
What kind of rock is made from carbon dioxide?
A11　Limestone (calcium carbonate)

Q12　二酸化炭素を石灰岩に変えた生物を２つ挙げよ。
List two organisms that changed carbon dioxide into limestone.
A12　coral, shellfish.

Q13　二酸化炭素濃度の変化グラフに、１年周期の変動があるのはなぜか？
Why do carbon dioxide levels fluctuate annually?
A13　Levels of carbon dioxide in the atmosphere rise and fall each year because plants, through photosynthesis and respiration, take up carbon dioxide in spring and summer, and release it in fall and winter. Now the range of that cycle is expanding as more carbon dioxide is emitted from burning fossil fuels and other human activities.

Q14　日本のエネルギー源で最も多いのは？
What is the largest energy resource in Japan?
A14　Oil

Q15　日本のエネルギー源で２番目に多いのは？
What is the second largest energy resource in Japan?
A15　Coal

Q16　再生可能エネルギーを５つ挙げよ。
List five renewable energies.
A16　Solar energy, Wind power, Hydroelectricity, Geothermal energy, Biomass.

Q17　パリ協定では、世界的な気温上昇を何度未満に抑えることを目標としているか。
What is the temperature target of the Paris Agreement?
A17　Its goal is to limit global warming to well below 2, preferably to 1.5 degrees Celsius, compared to pre-industrial levels.

Q18　カーボンニュートラルを説明せよ。
Explain “Carbon neutral”.
A18　“Carbon neutral” means having a balance between emitting carbon and absorbing carbon from the atmosphere.

Q19　ＥＳＧ投資を説明せよ。
Explain about ESG investing.
A19　ESG means using Environmental, Social and Governance factors to evaluate companies and countries on how far advanced they are with sustainability. ESG investing refers to a class of investing that is also known as “sustainable investing.”

Q20　カーボンオフセットとは何か？
What is carbon offset?
A20　A carbon offset is a reduction in emissions of carbon dioxide or other greenhouse gases made in order to compensate for emissions made elsewhere

Q21　あなたが経験した、千葉市への地球温暖化の影響を説明せよ。
Based on your experience, explain the effect of global warming in Chiba.
A21　Compared with my mother's experience, coldness in winter…
Two years ago, there was a heavy storm in our prefecture…
According to the TV news, tropical insects were found near Chiba Port…

第３回（１２月１５日（水））
場所：６つのグループに分かれ、６つの部屋に移動（セミナー１～６）
内容：ＺＯＯＭを使用しグループに分かれて交流をする。
①全体会；あいさつ、はじめの言葉（稲毛高校生徒）
②ブレイクアウトルーム
（自己紹介、お正月について、質疑応答）
③全体会；各班の代表が班で話した内容を報告、終わりの言葉（蔚山高校生徒）

第４回（１月１９日（水））
場所：６つのグループに分れ、６つの部屋に移動。
内容：ＺＯＯＭを使用しグループに分れて交流をする。
①全体会　あいさつ　はじめの言葉（蔚山高校生徒）
②ブレイクアウトルーム
（自己紹介、最近はまっていること、お互いに言葉を教え合う、質疑応答）
③全体会；各班の代表が班で話した内容を報告、終わりの言葉（稲毛高校生徒）

資料３　参加生徒の感想

１　交流の中で印象に残っていることや学んだことなど

・韓国人の生徒、先生が優しかったこと。うまく英語が出てこなかったときに単語を提示してくれたり、発音したら褒めてくれたり、とっさに出る優しさに感動した。
・英語にはその国の言語の特徴が合わられていた。韓国と日本で似ているところが何個かあった。
・とっさの反応やリアクションが難しいと思った。
・お互いの英語を聞き取ることができず、会話が止まってしまうこともあった。自分からもっと話しかけられるといいと思った。
・たくさん韓国語を教えてもらった。ジョルリダ＝ねむい
・文字を教えてもらった。
・韓国のお雑煮やハングルの歴史と構成を学べた。
・一人で交流したときはうまく伝わるかと心配になりましたが、ジョンミンさんとの交流で相手にもよく伝わっていたこと、また、楽しく会話できたことが一番印象に残っています。
・英語を共通語として、韓国の高校生と交流できたのはとても良い経験だった。自分の英語はどのくらい通じるのか確かめることもできて、もっと英語、韓国語を話せるようになりたいとモチベーションが上がった。

２　トピックについて（１２月はお正月・１月は言葉）

お正月
・２月１日。みんなの誕生日。お雑煮のトッポギを食べる。日本と同じように家族で過ごす。お金がもらえる。
・日本の文化に近いような韓国のお正月を知ることができた。
・除夜の鐘の回数が違うことに驚いた。
・正月飾りを説明した。

言葉
・アクセントがあまりないところは日本語と似ている。丁寧語・カジュアルな言い方があるところも似ている。
・言葉は似ているところがいくつかあって、なんでかなと思った。数字や言葉は英語より簡単に覚えられると思った。
・日本に来た時に必要になるであろう言葉を教えた。知らなかったことを知ることができてよかった。
・とても良いトピックだった。できれば、もっと長い時間交流したいと思いました。

３　来年度も蔚山科学高校と交流をするとしたら、話してみたいトピックは何ですか。

伝統的な食べ物、コンビニ、観光地。漫画。アニメ、言葉、学校生活、郷土料理、自然、休日行きたいところ、学校あるある、日常あるある、おすすめ料理

蔚山科学高校との交流

(2) 東京グローバルゲートウェイ研修

春期語学研修の事前学習として、高校２学年の普通科内進生と国際教養科生徒は、１０月１１日（月）と１２日（火）の２日間（日帰り）、東京都の東京グローバルゲートウェイにて研修を受けた。東京グローバルゲートウェイは、東京都教育委員会と株式会社 TOKYO GLOBAL GATEWAY が提供する体験型英語学習施設で、日常から離れ、海外をイメージして作られた街並みでいつもと違う環境のなか、グローバルな世界を存分に体験することができる。

８：３０	Arrive at TOKYO GLOBAL GATEWAY
８：３５	Enter the building
	Roll call at Global Stage (1st floor)
８：４５	Team Building
９：３５～１０：３５	Session 1
１０：４５～１１：４５	Session 2
１２：００～１２：４５	Lunch
１３：００～１４：００	Session 3
１４：１０～１５：１０	Session 4
	A look-back on the day
１６：００	Go home

TOKYO GLOBAL GATEWAY

施設内は日常生活でのコミュニケーションを様々な場面で体験できる「アトラクション・エリア」と英語を用いて、実践的かつ探求的な学習を、グループワークで体験できる「アクティブイマ―ジョン・エリア」に分かれており、生徒たちは７～８人のグループを作り、下記のような１日に４つのプログラム、全部で８つのプログラムを受けた。各グループには１人ずつ

「エージェント」と呼ばれるイングリッシュ・スピーカーが付き添って、まさに「英語漬け」の環境を体験することができた。

	共通プログラム	選択プログラム
アトラクション・エリア	トラベル、キャンパス	ホテルあるいはエアポート
アクティブイマージョン・エリア	・情報やデータをビジュアルで伝えよう ・ニュース番組を作ろう、 ・ＳＤＧｓ地球の１７の目標を考えよう ・ニュース取材を体験しよう	・マーケティングの考え方を学ぼう ・プログラミングを体験しよう

東京グローバルゲートウェイ研修の様子

事業６　グローバル企業訪問

１　ＳＭＢＣ日興証券オンラインセミナー

(1) 令和２年度の実施

ＳＭＢＣ日興証券株式会社への見学会は、今年で３年目となる。本校のコンソーシアムに加入していただき、毎年充実した内容を企画してくださることから、生徒にとっても人気の高いプログラムである。昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響で本社への訪問ができなかったため、オンラインでの実施ができないかと相談をさせていただき、２０２１年３月１７日（水）の午後に実施することができた。今回はＳＭＢＣ日興証券株式会社様のご厚意で、本校と東京本社、香港支社をＷｅｂ会議でつなぐという、オンラインの利点を生かした
新たな取組となった。金融や経済、海外勤務に関心をもつ高校１・２学年の希望者１６名が参加した。金融教育や海外から日本に来て働いている社員の方や日本から海外（香港）で働いている社員の方を講師としてお話を伺い、英語も交えながら質疑応答を行った。

資料１　参加生徒の感想（一部）

・このセミナーでは金融の基本的な知識や様々な立場、視点からの意見、グローバルな人の経験を学ぶことができました。**そのことで、将来海外で働きたいという思いがより一層高まりました。**

・日本を訪れる側の人のお話から、改めて迎える日本人側の対応も考えなきゃいけないな、と思ったり、学ぶ方法が限られていた昔の経験談もあったので、技術に感謝したし、もっと活かしたいと思いました。　香港での話も、言葉が丸切りわからないなかでの体験談はなかなか聞くことができないものだと思うので、本当に貴重な体験をさせていただきました。ご飯屋さんでのお話や香港のデモなどは実際経験しないと、まさかこんなところで！というようなエピソードだったので、とても興味深かったです。　**今回のセミナーですごくモチベーションが上がりました。自分にしかできない経験、探究心、など大事にしようとおもいました。きっと自分が好きな事を活かそうと思えたら、それをする場所はいくらでも作れるのだと気付けました！**

・本セミナーで以前よりも海外で働くことへの理解が深まり、いつかくるかもしれないそんなときへの準備として、語学を頑張ったり、人との関わりを大切にしたりと今できること、やるべきことがわかった気がします。**自分は今まで失敗するのがこわかったのですが、「失敗しても当然」と思ってあと１年間頑張ってみようと思いました。**お忙しい中、貴重な機会をありがとうございました。

・自分は、学生のうちに留学を経験しないと海外で働く時に不利だとこれまで思ってましたが、鎌田さんの話を聞いて**自分のポテンシャルと気持ち次第でいくらでもチャンスはあるということがわかって自信が湧いてきました。**他にも海外の人と関わるときに大事なことなどの将来必要不可欠な情報を得ることができてとても良かったです。有意義な時間をありがとうございました。

(2) 令和３年度の実施

本年度についても、昨年度と同様、オンラインでの実施を依頼し、２０２２年３月の実施予定である。

２　成田国際空港株式会社見学会

(1)実施までの経緯

成田国際空港株式会社への見学会は、本年度が３回目となる。敬愛大学地域連携センター長の藤森孝幸様には企画・調整だけでなく、当日の進行をしていただいた。英語を活かせる仕事として空港業務への関心が高く、本校生徒にとっても大変人気が高い企画である。当初は例年通りの時期として１０月の実施を計画したが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う緊急事態宣言発令により１２月に延期となった。

９月１４日（火）	１２月２３日(木)に延期が決定した。
１１月　８日（月）～１２日（金）	高１・高２生徒を対象に参加者募集開始
１１月１５日（月）	同意書を配付
１１月１６日（火）	事前指導 身分証明書の確認 ３日前からの学校での検温・体調チェック
１２月１７日（金）	事前資料配付
１２月２０日（月）～２２日（水）	検温（昼休み）
１２月２３日（木）	当日

(2)実施概要

①　日時　　１２月２３日(木) １２:００～１８:４５

②　訪問地　成田国際空港株式会社(成田市) https://www.naa.jp/jp/
　　公益財団法人航空科学博物館(芝山町) http://www.aeromuseum.or.jp/

③　当日の日程

１１：１５	放課
１１：２０～１１：４５	会議室にて昼食休憩
１２：００	稲毛学校発
１３：３０	成田空港着
１３：３０～１４：３０	ランプセントラルタワー 見学（空港業務説明）
１４：３０～１６：００	空港内を車窓から見学
１６：００～１７：１５	第２旅客ターミナル見学 株式会社 JAL スカイ業務見学 チェックインカウンター、JAL オペレーションセンター
１７：３０	成田空港発
１８：４５	稲毛高校着

④　参加者　　２５名
　（内訳）
　　本校生徒　　２０名
　　（高１：４名、高２：１６名）
　　引率教員　　２名
　　千葉市教育委員会　１名
　　敬愛大学職員　　２名

⑤　交通
　全行程、敬愛大学様所有の大型バスにより移動

⑥　経費　なし

資料２　参加生徒の感想（抜粋）

・自分の将来興味がある職業の理解を深めたり、自分がどんな職業に興味があるのかを知れたりする良い機会だと思った。私は既に興味を持っていた職業だったため、働いている方々の姿やその環境を間近で見せていただいて、自分の理想をより現実的に考えられた。また、限定的な役職ではなく「空港で働く様子」という広い範囲で見学することができたため、これまで自分の視野になかった様々な仕事を知ることができて、「興味を深める」＋「興味を新たに持つ」の一石二鳥に感じた。自分１人では興味のある仕事でもなかなか見学にいこうと思いづらいため、この機会がとても貴重なものとなった。

・私は、グランドスタッフという仕事に興味を持っていたので、今回参加して空港の業務などを知ることができて、とても感動しました。滑走路や消防署など、立ち入ることができない場所にも行けて、間近で放水を見たり、飛行機の離着陸を見たりすることができてとても楽しかったです。ＪＡＬのスタッフさんのお話で、３人中２人の方が大学では語学系ではなく違う学科で勉強していたことを聞きました。私は将来の夢や行きたい大学がまだ決まっていないので、よく勉強して、よく考えていきたいと思います。

・元々は友達に誘われて申し込んだだけでしたが、実際に行ってみてとても貴重な経験ができたと感じました。まず、空港を運営する会社があるということを知らなかったので、ＮＡＡのように、多くの人が知らないところで社会の支えとなっているような仕事が世の中にはたくさんあるんだろうなと思いました。自分の将来のについて今まで本当に漠然としか考えてこなかったけれど、もっと細かく様々な職業について調べてみようと思います。その他にも、空港用消防車の放水やＪＡＬのオフィスなど、普段見られないものをたくさん見ることができ、とても楽しかったです。

・人生で初めての空港ということもあり、すべてが新鮮で楽しかったです。消防など普段は見れないところに行けて貴重な経験ができました。自分は将来観光案内所で働きたいとずっと思っていましたが、今回のことを通して、空港のグランドスタッフも良いなと思いました。たぶん私はおもてなしができる仕事に就きたいのかなと実感することができました。たくさんのことを学べて充実した機会でした。

・初めての経験ばかりで本当に貴重な体験でした。特に私は日本航空のブースに行ったことが一番印象に残っています。周りを見るとパイロットの方々が打ち合わせをしていたり、飛行機が停まる場所を調整するなど、自分の知らないたくさんの仕事があり、新たなことをたくさん知ることができてとても嬉しかったです。グランドスタッフの方の言動はすべてが丁寧でこんな素敵な人に自分もなりたいと思いました。他にも滑走路を通ったり「すごい」が止まらない半日でした。本当に楽しく、ためになりました。ありがとうございました。

・今回は貴重な体験を本当にありがとうございました。空港といっても飛行機を飛ばすだけでなく、その安全を守る消防の存在や、スタッフの方の素晴らしい対応があってこそ皆に愛される場所になっているんだなと思いました。普段はだらしなくなってしまう私ですが、企業見学を通してＣＡの方々やスタッフ、成田空港に携わる方々の熱意のこもった誠実な態度に感銘を受け、自分自身生まれ変わりたい、という気持ちが芽生えました。今後も私たちの憧れる場所であっていただきたいです。頑張ってください。本当にありがとうございました。

・空港には何回も行ったことがあったけれど、働いている方とお話する機会は初めてだったのでとても嬉しかったです。特に印象に残ったのは、職員の方が英語が話せる状態で入社したわけではないということです。私はＣＡなど、遠い存在だと思っていて、自分なんかにはできないと感じていました。しかし、ＣＡに限らずどの職業もやっていくうちに学ぶ

ものと改めて気づかされました。自分の能力で諦めるのではなく、やりたいことに挑戦しようと思いました。貴重な体験をありがとうございました。

・私は今回企業見学で、ＪＡＬの社内で管制官とパイロットの会話を聞けたことが一番印象に残っています。管制官とパイロットの会話のペースがとても速くて、聞き取るのでさえ大変だったのに、さらに空港の滑走路を指揮していてすごいなと思いました。今回実際に世界レベルの企業で世界レベルの英語を聞くことができて、空港関係の企業で働くためには英語の勉強をもっと頑張らないといけないと思いました。空港での仕事に興味があるので、多くのことを知ることができてとても良い機会になりました。ありがとうございました。

・働いている方のお話を直接うかがうことができてすごく良かったです。いつも何気なく利用している空港がたくさんの職種の方々によって支えられているということが分かりました。特に空港の消防署はとても驚きました。今まで聞いたことがなかったけれど、直接お話を伺ってみて、空港や飛行機が安全な理由が分かりました。また、成田空港は女性の社会進出や外国企業へのノウハウの指導にも貢献していてとても興味深く、貴重なお話を聞くことができたなと感じました。グランドスタッフの方々のお話を通して夢を持つことの大切さを改めて感じました。将来の進路選択の幅が大きく広がりました。ありがとうございました。

３　今後の企業訪問の在り方について

グローバル企業訪問が開始されて今年で４年目となった。これまで見学した企業の一覧は以下の通りである。

資料３　グローバル企業訪問見学先一覧

年度	訪問先
平成３０年度	ＩＨＩ、住友商事、ＳＭＢＣ日興証券
令和元年度	ＳＭＢＣ日興証券、成田国際空港、ユニクロ
令和２年度	ＳＭＢＣ日興証券、成田国際空港
令和３年度	ＳＭＢＣ日興証券、成田国際空港

本校の場合、生徒たちにとって家族や学校以外に社会人と接する機会は極めて少ない。一方本校での英語教育や国際教育を受けて、大学でも英語を学び、国際教養を育む学部への進学を希望する生徒は多い。そうした生徒の中には、将来は英語を生かして働く者も出てくるだろうが、なかなか実際にそうした仕事をしている人と接する機会は少ない。

そのため、このプログラムで行っているように、実際に語学力を生かして、日本で海外からやってきた外国人を相手に働く人や海外に赴任して働く人と直接お話を聞く機会は貴重であり、参加生徒の感想を読む限り、そこから彼らが学び取ることは大きいように思われる。

今後の課題としては、第一に新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に対してどのように対応していくか。第二に生徒にこの活動の魅力とねらいを理解してもらい、参加者を増やしていくか、そして第三には訪問先については多様化していくことが望ましい。コンソーシアムに参加してくださっている大学等にご協力いただき、新規の訪問先を開拓していくことが今後の課題となるだろう。

事業８　附属中学校の取組

本校の附属中学校では千葉県初の併設型公立中高一貫教育校として平成１９年４月に開校した。これまで附属中学校では高校２学年の海外語学研修に向けて「グローバル・リーダー＝プロジェクト」として、総合的な学習の時間を軸に様々な取り組みを行ってきた（資料１）。これら活動は、体験的な学習を重視し、様々な活動を通して、個人の価値を尊重し、異文化を受容できるしなやかな心を持った国際人を養成することを目的としている。

この章では、これまでの附属中学校における各学年での活動について整理してまとめたい。

(1) 中学１学年での活動

①スタートアップセミナー

入学して間もない４月に、千葉市少年自然の家で、１泊２日で実施される宿泊行事である。この行事では、初日の夜にスタンツ大会を実施している。これは出会ったばかりの友人たちと事前準備の間に練り上げた劇などをグループごとに披露していくものだ。これらの活動によって、附属中生は自由に物事を考え、発想し、表現することの大切さ、そして仲間たちとチャレンジしていくことのかけがえのなさを学び、こうした精神を胸に６年間の学校生活が始まっていくことになる。

②言語技術

グローバル・リーダー育成の基盤として、自らの考えを相手に伝える力を身に付けるための活動として中学１年生の最初に行われている。この活動では、意見と理由を分けて書き、段落を構成していく「パラグラフライティング」の書き方を学ぶ。この書き方を用いて、自己紹介や、絵を文章で伝える活動を繰り返すことで、相手にわかりやすく伝わるよう説明する力を習得させることをねらいとしている。

③ｉちばｎプロジェクト

中学１学年の後半の活動だが、千葉県にある地方自治体のうち一つを担当し、その地方自治体の特徴や魅力を調査し、それらをポスターで紹介するプレゼンテーション活動を行う。この活動のねらいは第一に、千葉県に関する探究学習を通して、自分たちが立脚する郷土の伝統や文化を理解すること。また第二に表現力を高めること。言語技術で培った力を意識しながら、データを根拠として用いて説明を行うこと、それから相手に印象付ける技法を意識して発表を行う。そのため、ポスターにはデータをグラフとして示すことが求められ、また印象付ける技法として聴き手に刺さるキャッチコピーや声の大きさや身振り手振りといった非言語によるコミュニケーションの練習を行う。

④道プロジェクト

グローバル・リーダーとして必要な教養としての伝統文化とそこに宿る考え方や心を学ぶ活動。日本に古くからある剣道や柔道などの武道や、茶道や華道などの芸道といった様々な文化に関する体験的な活動を通して、日本において歴史的にどのような考え方や文化が大切にされてきたのかを理解していくことをねらいとする。具体的な活動としては、茶道や合気道について専門の講師を招いて体験学習を行う。

(2) 中学２年生での活動

①成田プロジェクト

成田についての事前学習を経て、４月末に日帰りの校外学習として成田市を訪問する。午前中に成田山新勝寺を訪れ、古くから日本に伝わり親しみの深い仏教について学習する。各自が設定したテーマに基づく調べ学習のほか、御護摩祈祷の体験や講話体験を行っている。午後は成田国際空港へと移動し、空港にいる外国人に声をかけ、インタビューを行うといった活動を行い、日頃の英語学習の成果を実践する。

資料１　附属中学校におけるグローバル・リーダー＝プロジェクト

学年	活動名	協働対象	教養	スキル
中１	① スタートアップセミナー	・入学して出会ってまもない、同学年の生徒	・他者と協働するために心がけるべきこと	・寸劇での表現技術
	② 言語技術講座	・新聞記者 ・美術館学芸員	・物事の伝え方やとらえ方には様々な形があること	・文章での表現技術 ・相手の立場に立った書き方と伝え方
	③ 職業インタビュー	・身近な地域で仕事を通して活躍している人々	・様々な仕事や職種があって世の中が成り立っていること	・インタビューにおける基礎的な技術 ・お礼状の書き方
	④ i ちば n プロジェクト	・千葉県内の各自治体で地域活性化を目指して働く人々	・千葉県で暮らす人々のアイデンティティ	・ポスター制作の手法と工夫 ・質問で相手の話を引き出す手法
	⑤ 道プロジェクト	・一つの道を追究して自己実現を目指す人々（茶道と合気道の師範）	・古くから本質を究めようとしてきた日本人のアイデンティティ	・レポートを作成方法と注意事項
中２	⑥ 成田プロジェクト	・成田空港に滞在中の外国人観光客 ・成田山新勝寺	・日本の伝統・精神 ・地域に根付く文化	・英語による簡易的なインタビュー技術
	⑦ 職場体験学習	・仕事を通して活躍している人々	・社会人として生きる中で抱える様々な葛藤	・新聞を使った効果的な情報伝達の手法
	⑧ 自然教室	・自然を相手に仕事をしている人々	・雄大な自然と共に暮らしてきた日本人のアイデンティティ	・劇による表現技術
中３	⑨ 東京 ABC	・日本の中枢である官庁で働く人々 ・首都の活気を支える様々な人々	・日本の首都は過去から現在までにおいて様々な文化をつくり発信してきたこと	・発表スライドの作成方法 ・相手にわかりやすく伝えるための話し方
	⑩ 千葉大学実地見学・講演	・千葉大学アカデミックリンクセンター	・千葉から世界に羽ばたいて留学したり仕事をしたりするために必要なこと	
	⑪ 修学旅行	・京都・奈良で伝統文化に携わる人々 ・神社・仏閣	・日本の古都が生み出してきた文化と日本のアイデンティティ ・文化を伝承していくための課題	・動画の作成方法と使用による効果的なプレゼンテーションの手法 ・聴衆を引き付ける話し方

(3) 中学３年生

①東京ＡＢＣプロジェクト

日本の首都である東京について、外国人旅行者に日本や東京の魅力が詰まった１日ツアーを企画し、プレゼンテーションを行う活動である。４月末の校外学習では、そのツアーを実際に自分たちで体験することで日本の良さを楽しみながら体感できる内容かを検証する。その上で、事後学習では寸劇などを自由に取り入れ、下級生にプレゼンテーションを行う。これは高校第２学年での海外語学研修で行うスキットを意識してのものである。

②修学旅行「京都・奈良」

日本の古都である京都・奈良にふれ、自分たちのアイデンティティとなる日本文化への理解を深める活動である。生徒が日常から興味・関心のあるテーマを京都・奈良と関連付けて事前に設定し、そのテーマに対しての仮説を事前に立てる。そして実際に現地での旅行を通して、自分たちの立てた仮説が正しかったのかを検証し、事後学習では下級生にプレゼンテーションを行う。

ｉちばｎプロジェクトの様子

成田プロジェクトの様子

東京ＡＢＣの様子

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、上記のような活動をそのままできているわけではないが（詳細は昨年度の報告書で述べた通り）、附属中学校はこれまでこのような狙いをもって取組を行ってきた。来年度４月からは千葉市立稲毛国際中等教育学校が開校するが、これまでの附属中学校の取組を生かしつつ、時代の変化に伴う現代的課題にグローバル・リーダーとして対応できる力を培うために総合的な学習の時間を軸とし、より良い教育活動となるよう計画して実施していきたい。

第２章　本年度の成果及び来年度以降の課題

１　目標設定に対する評価

(1)　「GPS-Academic（注１）」のスコア推移

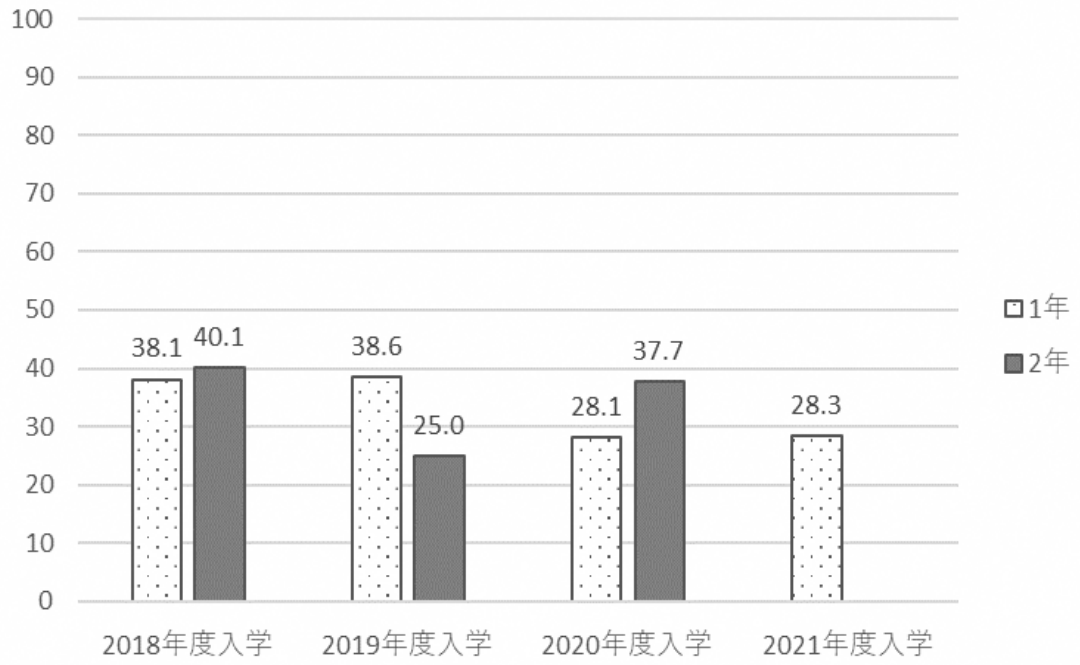
本構想において実現する成果目標として、「高校２学年１２月段階で「GPS-Academic」を実施し、そのスコアがＡ段階（注２）の生徒の割合が５０％を越える」を設定している。ここで挙げた「GPS-Academic」は、Benesse i-career が実施している思考力等を測定するツールである。Benesse i-career によれば、このツールを活用することにより、「探究活動を通じて、生徒が問題発見・解決に必要な思考力を身に付けることができたのかを可視化でき、外部評価として多様な分野に活用できるとのことである。

本年度までの結果を資料１にまとめたが、本年度初めて高校１学年の「②協働的思考力」のスコアがＡ段階以上となった生徒の割合が５０％を超えた。また高校２学年については全てのスコアが昨年度よりも改善される結果となった。しかし、昨年度同様、「①批判的思考力」及び「③創造的思考力」のスコアがＡ段階以上となった生徒の割合が例年よりも低い結果となった。新型コロナウイルス感染症による教育活動への影響も考慮に入れなければならないが、ここから読み取れる傾向は、本校の生徒の特性としてとらえることができるのではないかと考える。

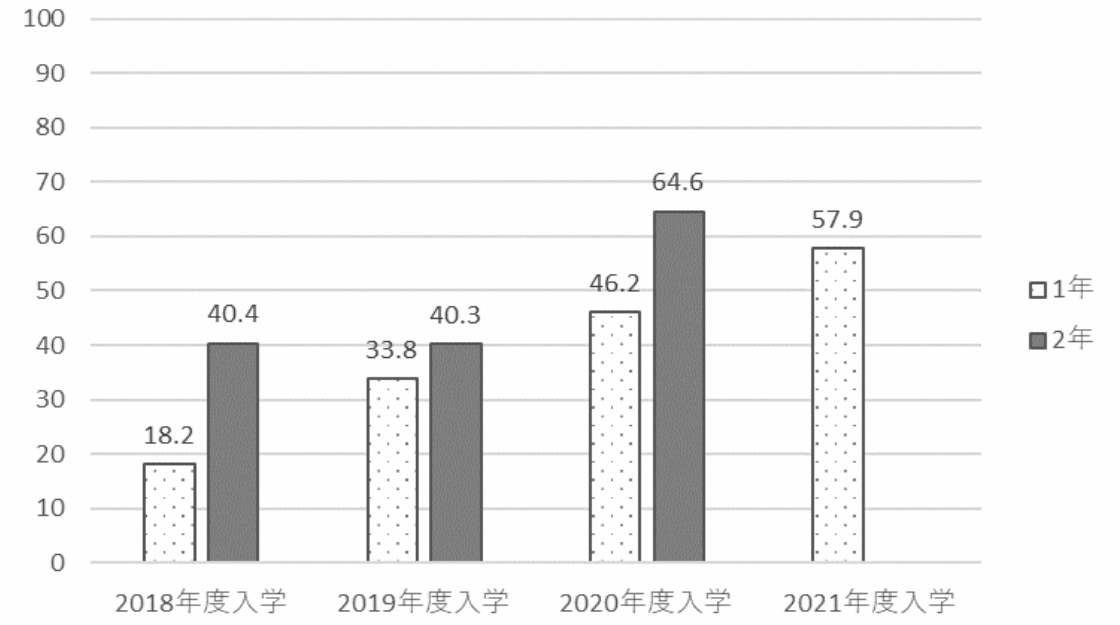
これらの結果をふまえて、今後の探究活動を含む教育活動全般について、特に批判的思考力や創造的思考力を伸ばすことを意識した取組を行うことが今後の課題である。

資料１　思考力別・GPS-Academic スコアＡ段階以上割合の推移

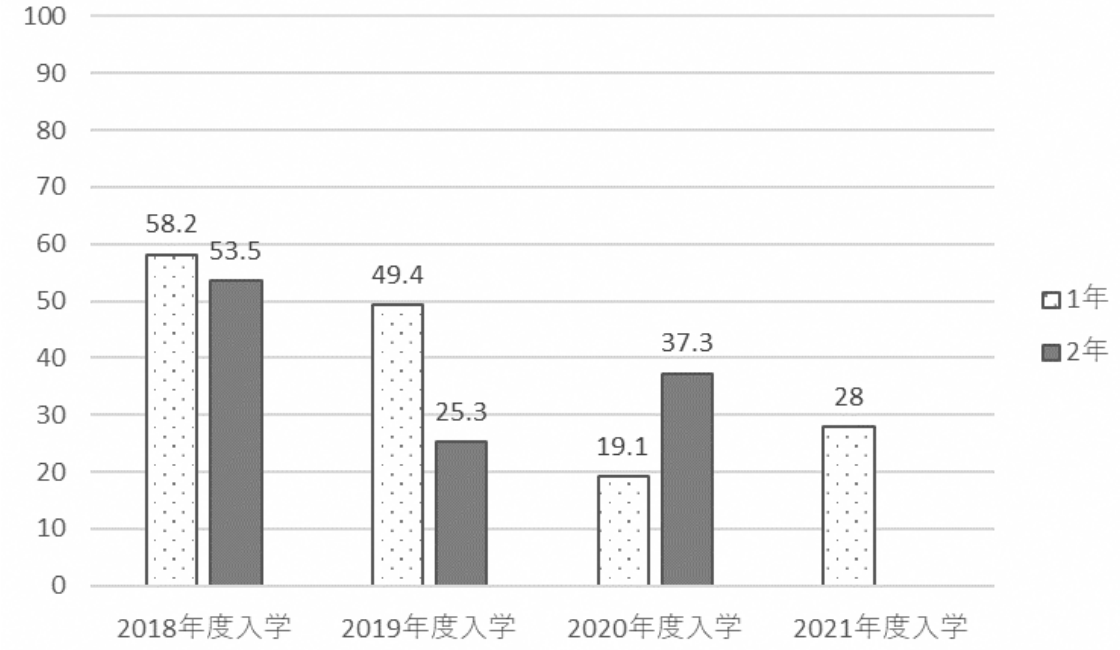
①批判的思考力（必要な情報を取り出し、いろいろな観点から考え、自分の考えを筋道を立てて説明するための思考力）



②協働的思考力（他者との共通点・違いを理解し、合意を得たり、気づきを得たりして人と関わり合うための思考力）



③創造的思考力（情報をつないだり、別の場面に応用したりすることで、問題を見つけ新たな解決策を生み出す思考力）



（注１）２０１９年度入学生より、本事業の指定を受け、評価の指標として活用している。
（注２）スコアは記述式と選択式の合算であり、Ａ段階以上の数値とは、Ａ段階とＳ段階の合算の数値を指す。

(2) 校内組織の活動状況

①地域との協働推進委員会

校内組織については毎年見直しながらここまで事業を進めてきた。初年度はワーキンググループ中心に進め、２年目には委員会へと改組し、本年度も委員会を軸として事業を進めた。この委員会は、本校の教育活動の中で　本事業に関わる事柄のうち、予算編成に対する調整、アンケート等調査（とりわけ高校魅力化評価システム）、報告書の作成、職員研修・先進校視察の企画、外部連携等を担当している。本委員会の果たす役割の特性から、構成するメンバーは教科や校務分掌、学年の多様性を考慮し、さらに実際に各事業に関わる職員を選定している。

また本年度は中等教育学校の準備も進めるため、新分掌として中等教育部が設置された。本事業終了後の本校の方向性や各活動の内容については、中等教育部を中心とする中等教育学校の検討と合わせて進められた。

②総合的な探究の時間検討委員会

全学年の総合的な学習・探究の時間に関わる職員が集まり、連絡・調整を行う会議であるが、所属する職員の人数が多く、個別具体的な案件について議論をするというよりは、年度当初の各学年の計画の調整及び、年度末の各学年の取組の総括及び来年度の計画立案をするために設置されている。

本年度はゼミナール担当者会議として、委員以外の職員も含めて複数回会議を実施した。また初回の会議では、これまでの本校の取組や探究活動と地域との協働事業について、転入職員に説明をする場を設けた。こうした機会は今後も必要と思われる。

しかし、探究を含め本事業を進める職員は、他の業務を並行しながら進めなければならず、担当職員への負担が重くなりがちであった。また担当職員の個性に依存する部分もあったため、後述の通り、令和４年度からは総合的な探究の時間を担当する分掌を新設する予定である。総合的な探究の時間検討委員会が果たしてきた役割は、この新分掌や学校全体の方向性について検討する新しい会議の枠組みに継承されていくことが予想される。

(3) ２回にわたる運営指導委員会の指導・助言

本年度は昨年度に引き続き、運営指導委員会がオンラインで実施された。これまでは本校の取組について成果報告と指導助言が中心だったが、本年度は今後の本校の在り方についても議論をお願いし、助言をいただいた。第１回は探究を進めていくための校内体制の在り方と職員の負担軽減及び外部人材の登用について、第２回は稲毛国際中等教育学校の開校にあたり、これまで校内で議論してきた検討状況について貴重なご意見を賜った。（詳細は巻末の議事録を参照）

(4) 外部への成果発表会

令和４年１月２１日（木）に実施された全国高校サミットで成果を発表した。

２　来年度以降の課題及び改善点

(1) 成果と課題

本校における研究開発は、一つ一つは以前から本校で行われてきた取組である。しかし、これまでは探究や地域との協働を進めるための組織体制が整備されておらず、３年間かけて本校としての探究と地域との協働を進めていくための体制を整えてきた。その結果、昨年度の反省を踏まえて来年度へ向けて改善を行い、継続性と持続可能性をもった取組を行うことができるようになった。

また本校が立地する地域は、他の先進校と比較すると、地域のつながりと言う点においては、必ずしも地域との協働がしやすい環境ではないかもしれない。しかし、そうした都市部に位置していても、逆にその利点を生かした地域協働のあり方を模索することができたと考えている。多くの大学の先生方にご来校いただき、生徒への指導をいただくとともに、探究プログラムの計画にご助言いただくことができるようになった。

資料２　３年間の成果

①校内での組織体制整備→より持続可能な取組へ
　地域との協働推進委員会の設置
　千葉市創生プロジェクトの担当者を設置

②都市型の利点を生かした地域協働体制の構築
　大学職員による中間発表会での質疑応答

③３年間を通しての探究活動カリキュラムを作成

一方、今後の課題としては、次の３点が挙げられる（**資料３**）。１点目は中等教育学校化に向けた本事業の成果の継承である。これは次の節で詳しく述べたい。２点目の生徒の主体的な課題意識の醸成については、外の世界との関係が希薄な本校の生徒にとって、いかに外の世界に目を向けさせるかが重要だと考えている。そのため、ローカル且つグローバルな課題意識を育む活動を入れていく必要があるかと考えている。３点目は昨年度に引き続き、今年度もコロナとの状況が続く中で、どのように代替的な活動を確保するかである。これは本校に限らず大きな課題だと思われる。

資料３　今後の課題

①中等教育学校化に向けた本事業の成果の継承
　・中高における各教科・科目のカリキュラムマネジメント
　・６年間の探究活動の再編

②生徒の主体的な課題意識の醸成
　・ローカル且つグローバルな課題意識を育む活動が必要

③With コロナ時代における海外語学研修や国際交流の在り方の検討

今後の展望としては、本校は令和４年度から千葉市立稲毛国際中等教育学校への移行が始まる。全員が６年間一貫教育を受け、全員が海外語学研修に参加することになるため、探究活動のカリキュラムも Inage Quest と名称を変えて、今までの成果をもとにより発展させた本校独自のものを作れるように現在計画している（詳細は次の節で述べる）。

本事業の指定自体は本年度で終了するが、本校の研究開発は、中等教育学校化の中で進められていくこととなると思われる。

(2) 千葉市立稲毛国際中等教育学校へ

令和４年４月に控えている、千葉市立稲毛国際中等教育学校の開校に向けた議論も本年度大きく進むこととなった。中等教育学校設置準備委員会と中等教育部を中心に準備が進められたが、本事業で取り組まれてきた成果を活かして、以下のように中等教育学校において育成すべき資質・能力と総合的な探究の時間・学習の時間における検討も進んだ。

①本校の育成すべき資質・能力

本年度４月に決定した「千葉市立稲毛国際中等教育学校移行基本計画　」では、２０２２年４月に開校予定の千葉市立稲毛国際中等教育学校（稲国）の学校像と生徒像を以下のように示している。

資料４　千葉市立稲毛国際中等教育学校の目指す学校像と生徒像

目指す学校像	「地域・世界・未来を切り拓くグローバル・リーダーの育成」
いま、世界では、人工知能（AI）やビッグデータ解析等の先端技術が高度化し、あらゆる産業や社会生活に取り入れられた Society5.0 時代が到来しつつあります。今後、社会の変化は加速度を増し、現在の子供たちが大人になる頃には、社会の在り方そのものが現在とは劇的に変わり、これまで人間が経験したことのない時代となっているでしょう。こうした時代には ◆どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をより良いものとしていくかを主体的に考えることができる ◆自らの行動を考え、責任を持って遂行できる ◆想定外の事態に向き合い、他者と協働し調整することができる といった人材が求められると思います。	

育成する生徒像	「高い志を持ち、幅広い教養を身に付け、　未来を切り拓いていく生徒」
このように複雑で予測不可能な時代の中で、子供たち自身が未来を切り拓くリーダーとなり、幸せで豊かな人生を生きていくために必要な力を育成します。 幅広い教養と国際的視野を身に付け、主体的に物事に取り組み、多面的・多角的に課題解決に向かい、　ワールドワイドに情報発信でき、継続的に努力できる人間を育成します。	

目指す学校像では、これからの時代を担っていく人材に必要な「資質・能力（コンピテンシー）」として、未来を構想する力・主体性・責任感・協働性・社会参画、生徒像では、教養　、国際的な視野、課題解決能力、情報発信能力、継続的な努力といった諸要素が挙げられている。また文部科学省によれば、「グローバル・リーダー」とは「生徒の社会課題に対する関心と深い教養、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身に付け、もって、将来、国際的に活躍できる」人材とされており、移行基本計画で示されたこれらの諸要素も、こうした「グローバル・リーダー」像に、新学習指導要領の理念を踏まえて打ち出されたものだと思われる。

また、学校像・生徒像のいずれも「未来を切り拓く」という表現が共通して使われている点も注目に値する。ここで述べられている「未来」は中等生自身が将来歩んでいく人生に加え、私たちが生きるこの地球の将来が含まれていると考えられる。いずれも、現状の延長線上にある「今のままいくとこうなるであろう」将来ではなく、「課題」を解決した先にある目指すべき理想とする将来となるだろう。

「課題」とは、理想として目指すよりよい社会像と変えなければならない現状との間のギャップ（差）を指し、「課題解決」とは、より良い未来へと現状を変えていく過程に他ならない。

さて、２０２２年現在、私たちが生きるこの地球には、次のような地球的な諸課題が存在する。これらの地球的な諸課題とその原因は一つではなく、複雑に絡み合っており、解決は容易ではない。しかし、気候変動など、今すぐにでも対応を行わなければ、間もなく人類社会が危機に瀕するような課題もあり、待ったなしの状況である。そのような時代において、学校が果たす役割を考えると、これまで以上に、学校は「教育によって社会をよりよく変え

ていく」という意識での取り組みが求められ、これまでの教育の在り方を変えていく必要があると思われる。千葉市立稲毛国際中等教育学校では、未来を切り拓く、つまり次の時代の社会システムをつくり、またその社会で活躍できる生徒を育成することを目指している。

では、現状から課題を見出し、より良い未来を切り拓く力とはどのような資質・能力を指すのだろうか。ここからは、ＯＥＣＤ（経済開発協力機構）が、２０１５年から進めてきた「Education2030 プロジェクト」でどのような資質・能力が重要とされているかを検討する。このプロジェクトは、２０３０年に必要となる資質・能力について検討するもので、２０１９年５月に「OECD ラーニング・コンパス 2030」という名称でその成果が公表されている。その検討は、日本の新学習指導要領にも影響を与え、先ほどの移行基本計画で示された本校の方向性にも受け継がれている。

「Education2030 プロジェクト」では、２０３０年にどのような資質・能力が必要だとされているのか。まず「変化を起こすために、自分で目標を設定し、振り返り、責任を持って行動する能力」を中核的概念としている。

また、①「新たな価値を創造する力」、②「対立やジレンマに対処する力」、③「責任ある行動をとる力」の 3 つを「変革をもたらす力」と呼んでいる。これらの力が、未来を切り拓くグローバル・リーダーに必要な資質・能力ではないかと考えられる。

ここまでの議論を踏まえると、本校で育成をしていく「グローバル・リーダー」像は次のように定義できる。

資料５　千葉市立稲毛国際中等教育学校で育成していく「グローバル・リーダー」像

グローバル・リーダーとは 「予測困難で不確実、複雑で曖昧な時代の中で、自分自身、他者そして地球にとってより良い未来が実現できるよう、自ら考え行動し、他者と協働し社会を変革する人物」 のことである。

②千葉市立稲毛国際中等教育学校における探究活動の在り方

千葉市立稲毛国際中等教育学校では「総合的な学習の時間」・「総合的な探究の時間」のことを、Inage Quest（ＩＱ）と呼ぶ。Inage Quest の“Quest”にはどのような意味がこめられているのだろうか。ケンブリッジ英英辞典では、次のように定義されている。

“a long search for something that is difficult to find, or an attempt to achieve something difficult”
── 見つけるのが困難な事を長時間探すこと、あるいは困難な事を達成しようとする試み

ラテン語の“quarere”（「探す」の意）から来ており、日本語では「探し求める」という意味になる。そのため、ＩＱでは、生徒たちが５年間をかけて「探求」するのは何か、そして最後に獲得できるものは何か明示する必要がある。

６年間にわたるＩＱの活動によって、生徒たちが得られるものは何だろうか。それは探究によって形成される、「自分自身の将来の構想」そして「未来を切り拓く力」等である。「未来を切り拓く力」の中で、特に変革をもたらす３つの力、すなわち①新たな価値を創造する力、②対立やジレンマに対処する力、③責任ある行動をとる力を伸ばしていくことが、IQ の大きな役割となるだろう。

中等生には、ＩＱを通し、探究の過程をくり返すことで、これらの資質・能力を伸ばし、自分自身をみつめ、将来への見通しをもち、６年次に希望進路を実現してほしいと考える。また、ＩＱでの経験は、中等生が卒業後も、大学での学びや企業などで働く際に大いに彼らの力となるだろう。なぜなら、探究の過程は実社会の課題解決の過程に他ならないからである。

千葉市立稲毛国際中等教育学校では６年間にわたりＩＱを実施するため、前期課程と後期課程を合わせて、6年次の修了時に到達してほしい姿として、次のような目標を設定した。

資料６　Inage Quest の目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な課題に関する探究活動を通して、自分自身の将来を構想し、未来を切り拓く資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

① 横断的・総合的な課題に関する探究活動の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題の構造と地域社会や自分自身との関係に気づき、探究の意義や価値を理解するようにする。

② 地球的諸課題と自分自身の興味関心を結び付け、問いを見いだし、仮説を立て、情報を集め、整理・分析して、論理的にまとめ・表現することが、複数言語でできるようにする。

③ 探究活動に主体的・協働的に取り組むことで、多様な人々と互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、自律的に行動を起こし、困難に負けず粘り強く取り組み、より良い社会を実現しようとする態度を養う。

①知識・技能については、ＩＱの６年間の探究活動の結果、概念的な知識を獲得している生徒の姿をイメージし、作成した。②の思考・判断・表現については、探究課題をより具体化し、日本語だけでなく英語でも探究を行うことができるようになることを意識して「複数言語で」という表現にした。③の主体的に学習に取り組む態度については、６年間の探究を経て、「未来を切り拓いていこうとする」意志をもち、それを行動で表すことのできる生徒を育成するという観点から、指導要領の表現から一歩踏み込んだ表現とした　。また「多様な人々」とは、年齢・性別・国籍など自分とは異なる属性や文化的な背景を有する人々との協働を包含する意味の表現となる。

ＩＱでは、第１学年（中学１年）～第５学年（高校２年）までを、探究課題に応じて、1st stage～4th stage まで４段階のステップに分けている。第６学年（高校３年）には、ＩＱの授業はないが、本校の最終学年としてこれまでＩＱで培ってきた経験や教養、資質・能力等を生かして、教科の学習や学校行事に生かし、探究の中で見出した興味・関心をもとに、進路実現につなげてほしいという願いをこめて、Final stage と位置付けている。

ＩＱの学習内容は、核となる「クエスト（プロジェクト型学習）」と「スキルを伸ばす活動」の２つに分けられます。現時点では、各学年の探究活動について、次のように考えている（**資料７**）。

資料７　各学年の探究活動

学年	探究課題	探究活動の概要
１・２年	町づくり	千葉市の魅力を発見し、発信する。地域と自己のつながりを認識し、地域社会に果たす自己の役割を考える。
３年	伝統文化	日本の伝統文化について班で調査・分析し、修学旅行をフィールドワークに位置付け、調べた成果を発信する。
４年	興味関心 キャリア	個人の興味関心に基づき、テーマを設定し、個人で探究する。キャリア教育とも結びつける。
５年	地球的 諸課題	
６年		

現在、本校の総合的な学習の時間および総合的な探究の時間は全教員で指導するという形

をとっている。全職員で指導する形態にはメリットがあるものの、課題もある（**資料８**）

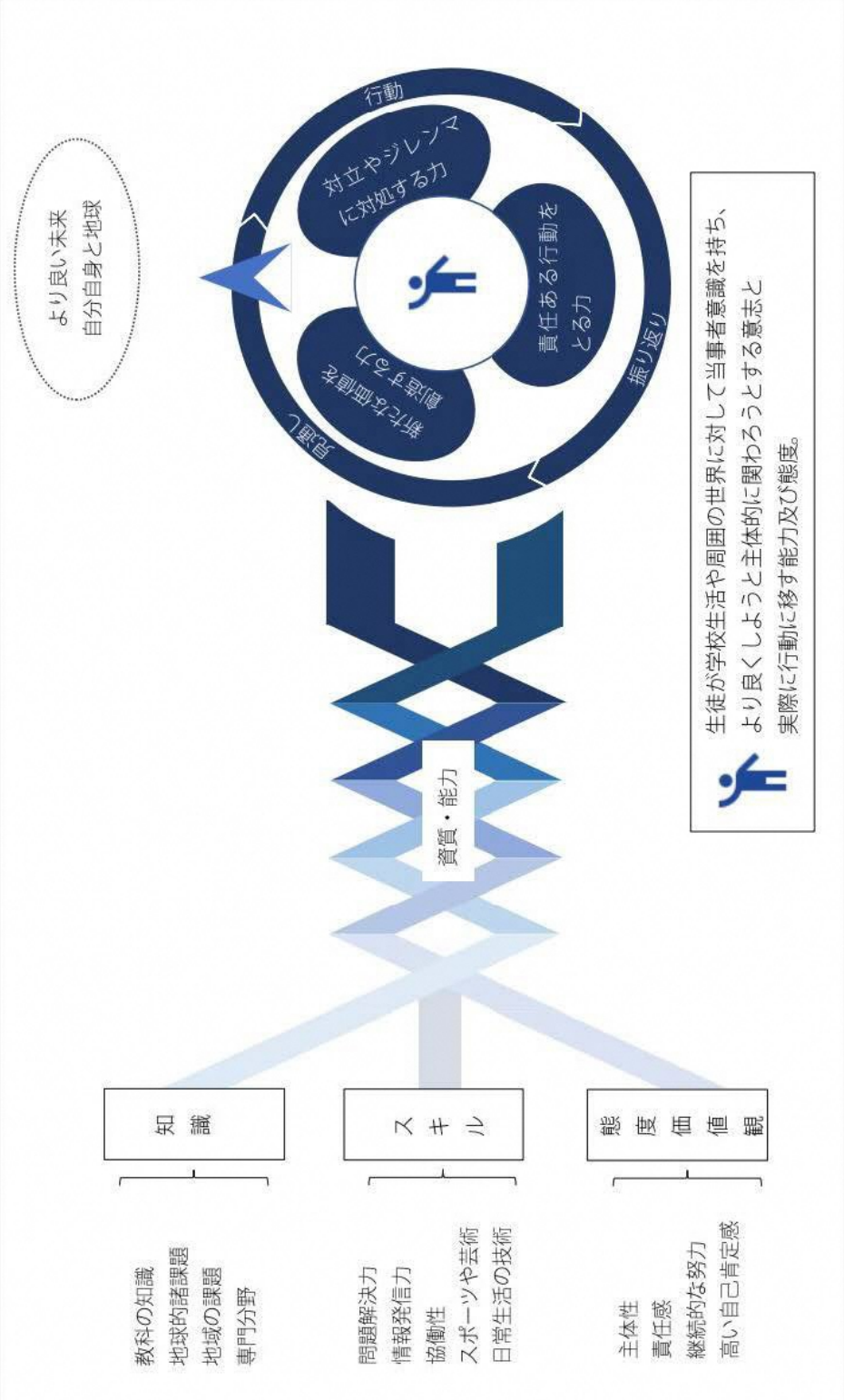
資料８　探究を全職員で指導するメリット・デメリット

メリット	総合を専門とする職員がいないため、全員で負担を担う 全職員で指導することで、全員にノウハウを蓄積し、継続性をもたせる
デメリット	全職員に一定程度の負荷がかかっている 中心となる職員への負担が増える 教科指導と並行することによる負荷が大きい 探究を指導するノウハウの共有が難しい 費やしている時間や労力に見合った成果がでているかの把握が難しい

そのため、教員の負担軽減を図りつつ、従来以上の質を確保するため、ＩＱは以下の指導体制で考えている。まず総合的な探究の時間・学習の時間および海外語学研修・国際交流を管轄する新分掌として「総合学習部」を設置する。また教科の授業を担当しない専任担当者を設置し、ＩＱの企画と生徒への授業実施を担当する。ＩＱはこの専任担当者と学年職員との連携によって実施していくことになる。

分掌化によって、校内での研究及び授業内容のノウハウの蓄積、取り組みの検証と次年度の改善を行っていくことが可能となる。本事業の終了後は、各委員会組織を発展的に解消し、この新分掌を軸に教育活動を行っていくことになると思われる。

資料９　稲毛国際中等教育学校で育成したい生徒の資質・能力像



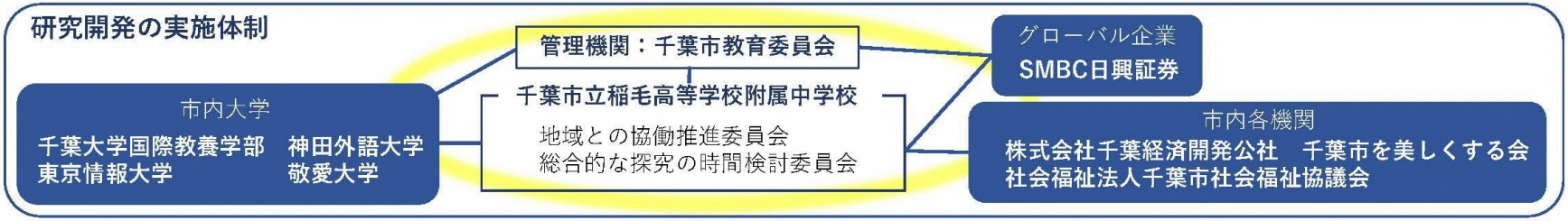
千葉市教育委員会【千葉市立稲毛高等学校】　　令和３年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローカル型）

２０３０年の持続可能な地域社会を創生するグローバル・リーダーの育成

研究開発の背景

本校は「グローバル・リーダー」の育成を教育目標に掲げ、英語教育及び国際理解教育の先進校として過去にＳＥＬＨｉの指定を受け、先進的な英語教育を実践し、英語によるコミュニケーション能力の育成に大きな成果を挙げてきた。一方、自分の意見を表明したり、相手と粘り強く議論する力や論理的かつ批判的に思考する力、自分たちが住んでいる地域への関心が希薄なことが課題となっている。

研究開発の実施体制



令和３年度の目標

①探究活動の改善および外部との協働の推進

②本事業の遂行に関し、各学年・分掌間の協働・連携の促進

③中高ならびに教科間のカリキュラムマネジメントの推進

④本事業の成果の外部への発信、本事業終了後の計画の立案

取組状況

○事業１「千葉市創生プロジェクト」
第１学年では身近な千葉市を教材とし課題設定を行い、フィールドワークを含む調査活動を経てその解決策を提言する活動を実施。成果発表過程で大学教授等から指導・助言を受けた。代表班が千葉市長への提言を行った。

○事業２「ＳＤＧｓリサーチプロジェクト」
第１学年１２月以降、グローバルな課題と関連付けて、自己の興味関心から主題を設定し、ゼミナール活動を軸として探究を行った。ゼミナール活動では２学年横断の活動となった。第３学年でその集大成としての探究論文を執筆した。また第２学年では普通科の一部と国際教養科でＳＤＧｓに関連したグローバル課題について調査研究する探究活動を行い、英語で発表した。

○事業３　国際交流
６月以降韓国の蔚山科学高校とのオンライン交流を複数回行った他、10月に東京グローバルゲートウェイ研修を行った。また秋に千葉大留学生を招いての授業を実施した。

○事業７　グローバル企業訪問
コンソーシアムの協力のもと、１２月に成田国際空港株式会社への訪問を行った他、３月にＳＭＢＣ日興証券株式会社とのオンライン交流を実施した。

成果と課題

○昨年度の運営指導委員会での指導・助言をもとに、校内の探究活動を計画段階から見直し、よりよいものへと改善をするよう、計画して実施することができた。その結果、成果発表会では調査・発表の質がよくなってきているという評価をいただくことができた。
○思考力を測定するツール（GPS-Academic）では、昨年度と同様に高校１学年では協働的思考力が、批判的思考力や創造的思考力と比べ高いという傾向だったが、高校２学年は１学年よりもいずれの数値も高い結果となった。
○ゼミナール活動が全学年にわたったため、全職員が指導できるように、定期的な会議を行い、情報共有に努めた。次年度は更に探究活動や国際交流を担当する新分掌を設置して、その分掌を軸に取組を継続していく。
○来年度４月から中等教育学校化に向けて、本事業の研究開発内容を踏まえて、６年間の探究活動の計画や伸ばしたい資質・能力についての検討を行った。

資料２　目標設定シート

【別紙様式５】

ふりがな	ちばしりついなげこうとうがっこう・ふぞくちゅうがっこう	指定期間	2019～2021
学校名	千葉市立稲毛高等学校・附属中学校		

地域との協働による高等学校教育改革推進事業　目標設定シート

１．本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）

		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値（　年度）
a	（卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標） ＧＰＳ－Ａｃａｄｅｍｉｃを実施し、そのスコアがＡ段階の生徒の割合（２学年１２月時点）						単位：
	本事業対象生徒：			40.4(昨年度18.2)（第1学年：協働的思考力）	40.3(昨年度33.8)（第1学年：協働的思考力）	64.6(昨年度40.3)（第2学年：協働的思考力）	50
	本事業対象生徒以外：			未実施	未実施	未実施	
	目標設定の考え方：						
b	（高校卒業後の地元への定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標） 将来、千葉市に戻り生活基盤を置く生徒の割合						単位：
	本事業対象生徒：			生徒の卒業後、追跡調査を実施する	生徒の卒業後、追跡調査を実施する	生徒の卒業後、追跡調査を実施する	50
	本事業対象生徒以外：			生徒の卒業後、追跡調査を実施する	生徒の卒業後、追跡調査を実施する	生徒の卒業後、追跡調査を実施する	
	目標設定の考え方：						
c	（その他本構想における取組の達成目標）						単位：
	本事業対象生徒：						
	本事業対象生徒以外：						
	目標設定の考え方：						

２．地域人材を育成する高校としての活動指標（アウトプット）						
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値（年度）
a （地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標） 校内探究委員会の開催回数						単位： 回
	0	0	8	8	8	8
目標設定の考え方： 校内での事業の進捗状況を把握する。						
a （地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標） 探究活動の先進校視察						単位： 校
	2	2	2	3	0	3
目標設定の考え方： 事業のより発展を目指すために実施する。						
a （地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標） 地域活動への生徒の参加人数（祭りへの参加、ボランティア等）						単位： 人
	140	140	280	100	100	200
目標設定の考え方： 生徒への地域への参画を推進する。２０１８・２０１９年度は附属中学校の生徒数を含む。						
b （普及・促進に向けた取組の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標） 探究活動による成果物（ポスター）の展示						単位： 回
	1	1	2	1	0	2
目標設定の考え方： コンソーシアムの協力を仰ぎ、地域に成果を普及させる。						
b （普及・促進に向けた取組の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標） 成果発表会の開催						単位： 回
	1	1	4	5	4	2
目標設定の考え方： コンソーシアムの協力を仰ぎ、事業の成果を普及させる。						
c （その他本構想における取組の具体的指標）						単位：
目標設定の考え方：						

３．地域人材を育成する地域としての活動指標（アウトプット）						
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値（年度）
a （地域人材を育成する地域としての活動の推進状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標） 探究活動やグローバル講演会等において、コンソーシアムが参画する回数						単位： 回
	0	0	11	7	6	10
目標設定の考え方： 各機関との連携を密にし，事業を円滑に進める。						
b （その他本構想における取組の具体的指標）						単位：
目標設定の考え方：						

＜調査の概要について＞

１．生徒を対象とした調査について

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
全校生徒数（人）			960	960	960
本事業対象生徒数			960	960	960
本事業対象外生徒数			0	0	0

資料３　令和２年度第２回運営指導委員会　記録

１　日　時　　令和３年３月１１日（木）　午後１時から午後３時３０分まで

２　会　場　　Zoom によるオンライン会議

３　参加者
（１）運営指導委員
　藤川大祐委員（千葉大学教育学部　副学部長）
　長田厚樹委員（神田外語大学アカデミックサクセスセンター　センター長）
　岩崎久美子委員（放送大学教養学部　教授）
　曽我辺穣委員（千葉市美浜区　区長）
（２）千葉市教育委員会
　片見悟史課長、臼井武彦主任指導主事、福水勝利指導主事
（３）千葉市立稲毛高等学校・附属中学校
　佐藤啓之校長、鈴木章史副校長、横田弘之教頭、木下智文教頭、篠笥寿事務長
　黒木俊輔教諭、篠崎早織教諭、髙梨和哉教諭

４　内　容　（１）開会の言葉
　　（２）千葉市教育委員会挨拶
　　（３）千葉市立稲毛高等学校・附属中学校長挨拶
　　（４）出席者紹介
　　（５）委員長・副委員長選出及び挨拶
　　（６）活動報告（午後２時２０分～午後３時１０分）
　　ア　昨年度（１年目）の活動報告について
　　イ　本年度（２年目）の活動状況・予定について
　　（７）授業参観（午後３時２０分～午後３時５０分まで）
　　（８）質疑応答及び指導助言（午後４時～午後４時４５分）
　　（９）諸連絡
　　(10) 閉会の言葉

５　指導・助言（抜粋要約）
（１）総論
・批判的思考力と創造的思考力の伸びが課題であるというのは非常に重要。生徒の発表を聞いて受けた印象、すなわちロジックが不問にされて、表現力に重点が置かれているという議論と　GPS academic の評価が重なっている。
・批判的思考力を伸ばしていくために、日本語のディベートを取り組みの中にいれてみてはどうか。創造的思考力を伸ばしていくためには、プロジェクト型の学習を行っていくことが必要。研究発表がゴールではなく、何かを実現する、あるいは問題解決するということがゴールとなるように学習を計画することで、創造性が鍛えられる。
・今回の（国際教養科の）英語発表は高いレベルの発表だったが、実際の１次的な情報を用いて、生の問題を解決するというよりも、２次的な資料で調べたという形になっている。生徒の能力を活かしきれていないという風に感じる。
・今回の報告で図書館の利用拡大をされているということに言及されたのが本当に嬉しく思いました。やはり探究学習では生徒が事前に一定以上の知識をインプットし、十分蓄積してないとなかなかうまくいかないだろうなと思うので、前提としてやはり知識を本を通して入れるという作業は不可欠だと思う。
・チームでの成果発表の場面を見ることが多い。それはそれで今日どうすることを学ぶという意味では意味があるが、生徒が一人で探究を深める力も必要かと思っています。チームでの方向性に縛られて自由に学習できない不自由さがある人もいるんじゃないかなと思いました。

ゼミの内容がとても充実してきて、是非稲毛高校の特色としても全面的に打ち出していってほしい。

・ゼミ選択がとても重要だと思っていて、各ゼミの学問書・入門書を図書館等で事前に読むなど、生徒は学問内容を知る機会が保障される必要があるかと思っている。ゼミに入った後に、学術文献一冊の感想を書いて文献リストを作るのはとても良いが、ただそこまでに行く間にやはりゼミ生共通の理論的基盤をつくることも必要で、ゼミ生には一冊大学の入門書の基本書というものを共通で読むという作業をさせてから次のステージにいくのがいいのではないかと感じました。

・探究学習の肝と言えるのは教員の力量かと思う。教員の裁量があるということは、教員によって力量の差が出るということです。探究学習は生徒以上に教員自身の自己啓発や学校全体が学習するんだと学習する方向に行く。先生方が今ある知識で勝負するんではなくて、自分も学習するんだという文化を共有する必要がある。通常の授業以上に知的好奇心を持って、生徒とフラットに対話するようにして行っていただきたい。

・全員で行わなければならない、時間的制約があることも承知しているが、調べました、解決法はどうですかで終わっているという印象。調べて提案があったもので、クラス内で意見をぶつけあうような場をもうける。５分の発表でおしまいではなく他の人の意見や批判を聞く機会をつくる。

・ゼミナールで図書館で活動をするのはとてもよい。今の学生は、日本語のまとまった文章を読む体験が少ないという印象。文章を読まないと書くのが難しい。

（２）その他

・コロナ禍において、大学はオンライン実施という状況で、高等学校は生徒がいる中で、感染症対策に気を付けながらこれだけの活動をするのは困難。

・企業との連携を進めていくうえで、グローバル企業の開拓などについて、千葉市経済農政局雇用促進課との連携が重要。

・中等教育学校化したら、中学校段階でアカデミックスキルの基礎を身に付けたり、コミュニケーションの基礎を身に付けたり、問題解決に取組んでみてほしい。高校レベルになったら、現在よりも一段階上のレベル、つまり大学生と同レベルの問題意識をもった活動を高校生の立場をいかして行ってほしい。この取組みが活かされて、中高一貫教育の良さをうまく導き出してほしい。

・オンラインでの取組での知見がえられた。国際交流については従来のものは現状困難。できないという前提で、どうやったら海外に行ったのと同じような効果をえられるのか。準備をすすめていくことが必要。

・外部人材の NPO 等との連携による業務の分担と削減を進める。

・新型コロナウイルス感染症が終わったから元に戻るんではなくてこれを契機に更に一歩進んでいってほしい。人が集まって行うライブ会議も全てオンライン化したが、コロナ禍が終了しても、このまま継続していくと思われる。

・高大連携の授業が中止となったが、大学の授業がオンライン化している今、そうしたものを利用することで実施可能なのではないか。また、zoom を活用することで講演会についても、講師に来校してもらわなくても実施することができ、これまでよりも幅広く講師を頼むことが可能となる。

資料４　令和３年度第１回運営指導委員会　記録

１　日　時　　令和３年７月８日（木）　午後２時３０分から午後４時３０分まで

２　会　場　　Zoomによるオンライン会議

３　参加者
（１）運営指導委員
　藤川大祐委員（千葉大学教育学部　副学部長）
　長田厚樹委員（神田外語大学アカデミックサクセスセンター　センター長）
　岩崎久美子委員（放送大学教養学部　教授）
　藤井剛委員（明治大学文学部　特任教授）
　曽我辺穣委員（千葉市美浜区　区長）
（２）千葉市教育委員会
　片見悟史課長、臼井武彦主任指導主事、藤沢哲指導主事
（３）千葉市立稲毛高等学校・附属中学校
　伊澤浩二校長、木下智文教頭、黒木俊輔教諭、花里卓朗教諭

４　内　容　（１）開会の言葉
　　（２）千葉市教育委員会挨拶
　　（３）千葉市立稲毛高等学校・附属中学校長挨拶
　　（４）出席者紹介
　　（５）委員長・副委員長選出及び挨拶
　　（６）活動報告
　　（７）質疑応答及び指導助言
　　（８）諸連絡
　　（９）閉会の言葉

５　指導・助言（抜粋要約）

・外部との連携にあたり、コーディネーター役の確保が必要となる。双方にとっても利益のあるような関係が構築できれば無償でも引き受けてもらえる可能性がある。
・ＯＧ・ＯＢによるメンター制度や企業のＣＳＲ制度の活用も視野に入れてはどうか。
・オンラインで講師の方に授業に参加してもらい、生徒のディスカッションに助言してもらう。
・テーマについては、学校の外に目を向けさせるのが目的であるから、学校問題を除外した方がよいのではないか。
・地域課題の提言については、本当に訴えるべき相手に訴える事が大事。学校内のことであれば、まずは校長に訴える等し、学校内で一定の議論を深めてから千葉市教育長に。当事者意識が希薄な議論とはならないように。
・大学では、プレゼンテーション発表よりそのあとの質疑応答にきちんと答えるということを大事にしている。
・生徒が直立不動なのは良くない。対話型の環境づくりも必要ではないか。実際のビジネスの場面でもありえない状況。

活動報告

2021年7月8日　令和3年度第1回運営指導委員会
千葉市立稲毛高等学校・附属中学校
地域との協働推進委員会　主任　黒木俊輔

2021年度　第1回活動報告

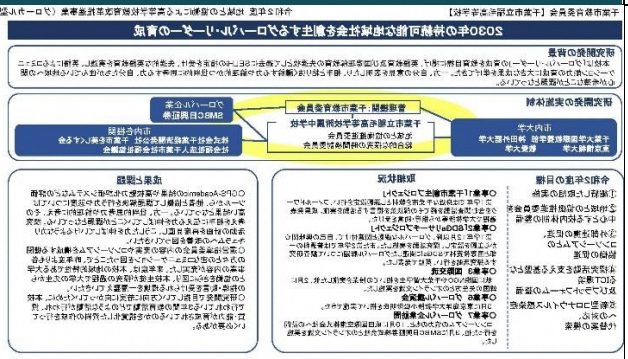
1　本年度の活動計画
（1）昨年度の成果と課題
（2）本年度の計画

2　本年度の実施状況

1　本年度の活動計画

昨年度の成果

1. 学校内での継続した取り組みの実施
   ヨコ　各事業同士の連携・バランス
   タテ　学年間の連携と教員の専門性
2. 外部連携の促進
3. 探究を支えるICTプラットフォームの整備
4. 新型コロナウイルス感染症への対応、代替案の模索



本年度の課題

1. 都市部の高校として、地域とどのように協働し、教育活動を行っていくか
2. 「考え抜く力」と「行動する力」を伸ばしていくためにどのように改善していけばよいか
   ★GPS-academicの結果より
   「批判的思考力」と「創造的思考力」の伸びが課題

本年度の目標

1. 探究活動の改善および外部との協働の推進
2. 本事業の遂行に関し、各学年・分掌間の協働・連携の促進
3. 中高ならびに教科間のカリキュラムマネジメントの推進
4. 本事業の成果の外部への発信、本事業終了後の計画の立案

2　各事業ごとの実施状況

新型コロナウイルス感染症による影響

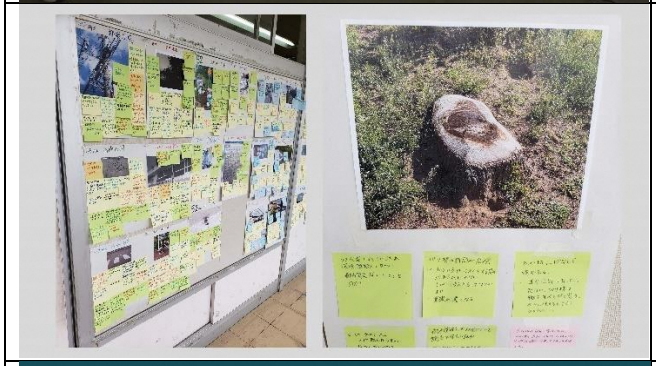
事業1　千葉市創生プロジェクト　→実施
事業2　SDGsリサーチプロジェクト→実施
事業3　国際交流　→代替実施
事業4　海外研修　→中止
事業5　英語科ディベート授業　→実施
事業6　グローバル講演会　→実施
事業7　グローバル企業訪問　→実施
事業8　外部連携（大学授業受講）→実施

「千葉市創生プロジェクト」の改善

方　針　論理的かつ提案性の強い発表内容に向けた指導

改善点　課題設定　写真を使ったブレインストーミング
調査活動　2回のフィールドワーク
10月に1回→7月と10月に2回
9月の中間発表会の実施
発　表　大学の先生方による質疑応答

ブレインストーミングの様子



講演会（6/1）

ゼミナール活動

○高2・高3の合同ゼミ（4月～6月）
中間発表会…高3が高2の発表を聞き、質問やコメントを行った

○高3のゼミ活動（4月～7月）
現在、探究論文執筆の大詰め
夏休み明けにゼミ内での発表→優秀論文の選出

探究活動の参考資料

○課題研究メソッドStart Book
―探究活動の土台づくりのために

岡本尚也　啓林館

外部との協働の推進

○会議・発表会のオンライン開催
運営指導委員会（7月・10月）成果発表会（11月予定）
○地域連携の拡大
・千葉市経済農政局雇用促進課との連携
フィールドワーク先の助言
グローバル企業訪問の新規開拓
・神田外語大学キャリアセンターとの連携
・NPO「企業教育研究会」との連携
6/1　講演　高校1学年対象　市野氏

グローバル講演会

SMBC日興証券オンラインセミナー

2021年3月17日（水）
13:00～14:30
オンラインで実施。
1・2学年希望者16名が参加。金融教育や海外から日本に来て働いている社員の方や日本から海外（香港）で働いている社員の方を講師としてお話を伺い、質疑応答を行った。特にイギリスから来校された社員の方とお話をする際、
英語を使い質問をしていた。

資料５　令和３年度第２回運営指導委員会　記録

１　日　時　　令和３年１０月１８日（月）　午後２時から午後４時４５分まで

２　会　場　　Zoom によるオンライン会議

３　参加者
（１）運営指導委員
　藤川大祐委員（千葉大学教育学部　副学部長）
　長田厚樹委員（神田外語大学アカデミックサクセスセンター　センター長）
　岩崎久美子委員（放送大学教養学部　教授）
　藤井剛委員（明治大学文学部　特任教授）
　曽我辺穣委員（千葉市美浜区　区長）
（２）千葉市教育委員会
　片見悟史課長、臼井武彦主任指導主事、藤沢哲指導主事
（３）千葉市立稲毛高等学校・附属中学校
　木下智文教頭、黒木俊輔教諭、花里卓朗教諭

４　内　容　（１）開会の言葉
　　（２）千葉市教育委員会挨拶
　　（３）出席者紹介
　　（４）委員長・副委員長選出及び挨拶
　　（５）第１回運営指導委員会議事録（発言要旨）について
　　（６）活動報告
　　（７）質疑応答及び指導助言
　　（８）諸連絡
　　（９）閉会の言葉

地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローカル型）
研究開発実施報告書　令和３（２０２１）年度指定

発行年月日　令和４年３月２６日

編　　集　千葉市立稲毛高等学校地域との協働推進委員会
発　行　者　千葉市立稲毛高等学校　千葉市立稲毛高等学校附属中学校
〒２６１－０００３
千葉市美浜区高浜３丁目１番１号
ＴＥＬ　０４３－２７７－４４００（高）
０４３－２７０－２０５５（中）
ＦＡＸ　０４３－２７９－０５６５
ＵＲＬ　http://www.inage-h.ed.jp/

高

中